

「総合型地域スポーツクラブのファンドレイジングを促進する
テキストと事例集の作成」事業

地域を支え、地域に支えられるスポーツクラブの自立を目指し
補助金・助成金型から寄付型の運営資金へ、獲得の方法を探る

地域の総合スポーツクラブの設立と運営を支援する「クラブネッツ」。日本にクラブライフを根づかせるため、スポーツの枠を超えた社会貢献活動が重要だと唱え、1クラブ1ソーシャルグッド、子どもスポーツ支援、福島県飯館村再会プロジェクトなど、さまざまな活動に取り組んでいるが、今回ファンドレイジングに長けた人材を育成するために、2冊のブックレットを製作した。

総合型地域スポーツクラブの間で広がる
運営資金の格差を解消するために自立を目指す

「日本におけるスポーツのあり方はどこかいびつであったり、偏狭であったりする」と、指摘されることが多い。たとえば日本のスポーツは、学校や企業の運動部が中心であり、勝利至上主義といった面が強い。また、野球にしる、サッカーにしる、幼い頃から単一種目に特化したチーム作りを行うため、それに馴染めなかったり、苦手とする子ども、あるいはいろいろなスポーツを楽しみたいという子どもの受け皿がほとんどない。

それに対して、たとえばドイツなどでは、100年以上の

歴史を持つような地域に根差したスポーツクラブがあり、さまざまなスポーツを、さまざまな世代の人が集って楽しんでいる。その運営も行政や民間企業まかせではなく、地域住民が主体的に担っている。いわば、スポーツクラブが地域社会のインフラのひとつとして機能しているわけだ。このような総合型の地域スポーツクラブの設立と運営を支援するための組織として1998年に創設されたのが、「クラブネッツ」である。

「2013年7月時点で、日本には約3500団体の総合型地域スポーツクラブがあります。そのなかの152団体が地方自治体からスポーツ施設の指導管理事業などの業務を委託されていますが、行政から潤沢な資金を得られるクラブと、そうでないクラブとの間の格差が大きくなってきています。そうした状況を打開するには、クラブ側が補助金や助成金に頼らずに、自分たちで運営資金を獲得する方法、すなわちファンドレイジングを模索しなくてはなりません」

クラブネッツの副理事長・事務局長を務める水上博司さんは、そう話す。その方法として考えられるのは、地域に立脚して運営されるスポーツクラブという原則からいっ



助成を受けて制作された事例集とテキスト



福島県飯館村から避難している子どもたちのために再会プロジェクトを実施している

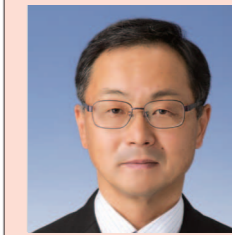
ても、地域の住民や団体からの寄付を募ることであり、そのためにはクラブが認定NPO法人を取得したほうが、税制上、寄付を集めやすくなる。

寄付型ファンドレイジングにシフトすることは
日本に寄付文化を根づかせるきっかけにもなる

総合型地域スポーツクラブが自主財源を獲得するには、そのような寄付型ファンドレイジングが理想的であり、「そのためにはまず、知識やスキルを持ち、仕組みを構築できる人材の育成が欠かせません」と、水上さんは語る。そこでクラブネッツでは、寄付型ファンドレイジングについて学ぶセミナーやワークショップで活用するためのテキストと、地域社会の課題解決に向けてクラブが取り組んでいるスポーツ以外の社会的活動の実例を集めた事例集の2冊を作成したが、その製作費用としてAJOSCの助成が使われた。

「2冊とも24ページというコンパクトなブックレットにしましたが、セミナーなどのディスカッションに役立てていただくために、テキストのほうは認定NPO法人の取得という明確な目標を掲げ、あえて情報をスリム化しました。また事例集のほうは、寄付型ファンドレイジングにつながるような事例を中心に取り上げていますが、その前提には、私たちが掲げる『1クラブ×1ソーシャルグッド』というミッションがあります。これは、ひとつのクラブが、障がい者支援、休耕田活用、子どもや高齢者の見守りなど、ひとつの社会的な活動をしていこうという運動です。

担当者より



アンケートの実施で
各地のクラブが行う
社会活動を把握

クラブネッツ 理事長
順天堂大学教授
黒須充さん

私たちのような中間支援ネットワーク組織は支援地域や支援団体を特定していないため、助成を受けにくい面がありますが、今回、AJOSCから助成をいただいたことで、今後の活動に役立つアンケートを実施でき、セミナーやワークショップで使用するテキストを作成することができました。これからもスポーツ界のイノベーションを目指してがんばります。

まとめるにあたって苦労したのは、スタッフ不足と、比較的新しく設立されたクラブの担当者の連絡先を把握することでした。こうしたクラブは運営資金面での悩みや苦労を抱えているところが多いので、なんとかそこを支援したいのですが、個人情報などの関係もあり、それを調べる手間が大変でした。それでも、助成のおかげで事例集のためのアンケートを約3000団体に送配布することができました」と、水上さん。

コミュニティのインフラとして総合型地域スポーツクラブを位置づけるためにも地域住民や団体から寄付という形で資金を獲得することは重要であり、それはまた日本において寄付者を育て、寄付文化を根づかせていくことにもつながる。「スポーツ界のイノベーション」と水上さんが呼ぶクラブネッツの活動に大いに期待したい。



ドイツと日本におけるスポーツの未来セミナー（2014.3.15開催）